

〈1〉 強化された露朝関係、その経緯と展望

甲南女子大学 准教授 鴨下 ひろみ

ロシアによるウクライナ侵攻が長期化するなか、北朝鮮はロシアの要請を受けて1万人を超える規模の軍隊を派遣した。兵士らはロシア西部クルスク州での戦闘に投入され、米国政府は北朝鮮側に1000人以上の死傷者が出ていると明らかにした¹。

北朝鮮とロシアは2024年6月に「包括的戦略パートナーシップ条約」を結び、その4条で「双方のうち、一方が個別的な国家、または複数の国家から武力侵攻を受けて戦争状態に瀕する場合、他方は国連憲章第51条と朝鮮民主主義人民共和国とロシア連邦の法に準じて遅滞なく自国が保有している全ての手段で軍事のおよびその他の援助を提供する」²と定めた。

北朝鮮が短距離弾道ミサイルや砲弾といった兵器に加え、兵員を送ったことにより、露朝両国の軍事的連携はより高度な段階に突入し、国際社会に衝撃を与えている。

北朝鮮兵の戦闘参加は、ロシアのウクライナ侵攻に初めて第三国の軍隊が加わることを意味する。戦闘が多国間に拡大する引き金となりかねない行為に、ウクライナのゼレンスキー大統領は「世界大戦への一歩」と述べ、北朝鮮を強く批判した。

ロシア派兵と並行して北朝鮮は、米韓への揺さぶりも強化している。米大統領選挙を目前に控えた10

月末には、大陸間弾道ミサイル(ICBM)の「最終完結版」とする最新型「火星19」型の発射を成功させた。金正恩朝鮮労働党総書記は「核戦力を強化する路線を決して変えることはない」と述べて、核・ミサイル開発の継続を強調した。韓国に対しては南北連結道路の爆破などを通じて「敵性国家」との位置づけを可視化している。

本稿では露朝関係を概観するとともに、北朝鮮による派兵の戦略的意味、金正恩体制に与える影響、トランプ前大統領の再登板を受け、北朝鮮がどのような対米・対韓政策を打ち出すかなどについて分析・考察する。

第1章 北朝鮮のロシア派兵

1. 韓国国情院が異例の発表

北朝鮮がロシアに1万人規模の軍隊を派兵したことは、砲弾や短距離弾道ミサイルなどの「モノ」から「ヒト」へと露朝の軍事協力がより高度な段階へ突入したことを意味する。北朝鮮が大規模兵力を海外に派兵するのは初めてで、欧州での戦闘がアジアの安全保障にも波及する形となった。

ウクライナは北朝鮮派兵の兆候に敏感に反応した。ゼレンスキー大統領は10月13日、「ロシアと北

¹ ウクライナのゼレンスキー大統領によれば北朝鮮側の死傷者は4000人以上。

² 朝鮮中央通信「朝鮮とロシアの包括的戦略的パートナーシップに関する条約全文」2024年6月20日

朝鮮のような国との同盟関係が強まっている。もはや単なる兵器の移転にとどまらない。北朝鮮から占領軍へと人員が移転している」と指摘、北朝鮮の派兵に言及した。

次いで、ウクライナ文化情報省の戦略コミュニケーション・情報セキュリティセンターはロシア極東の軍事関連施設で北朝鮮の兵士らが装備品を受け取る様子だとする映像を公開した。また、ロシア軍が軍服や靴などのサイズを質問する朝鮮語の調査票を用意していたことも明らかにした。

韓国の情報機関・国家情報院（以下、国情院）も異例の情報公開に踏み切った。同月 18 日、国情院は北朝鮮がロシア派兵のための特殊部隊を移動させ始めたことを確認したと発表した³。国情院は 8 月初め、北朝鮮ミサイル開発の核心である軍需工業部の金正植（キム・ジョンシク）第 1 副部長が数十人の北朝鮮軍将校とともに数回にわたりロシア・ウクライナ戦線付近の北朝鮮「KN23 ミサイル」発射場を訪問し、現地指導している状況をつかんだ。さらに 10 月 8 日から 13 日までの間、ロシア太平洋艦隊所

属の揚陸艦 4 隻と護衛艦 3 隻が北朝鮮の清津（チョンジン）、咸興（ハムフン）、舞水端（ムスダン）付近の地域から、北朝鮮特殊部隊 1500 人余りをロシアのウラジオストクに輸送するのを捉え、北朝鮮軍の参戦開始を確認したと明らかにした。



図1 日本海上ロシア上陸艦の北朝鮮兵力輸送活動（国情院報道資料：訳筆者）

国情院は同時に、北朝鮮兵力を輸送するロシア艦艇の活動やロシア沿海州のウスリスクとハバロフスクの軍事施設に北朝鮮兵が集合している場面を映した衛星写真も公開した。

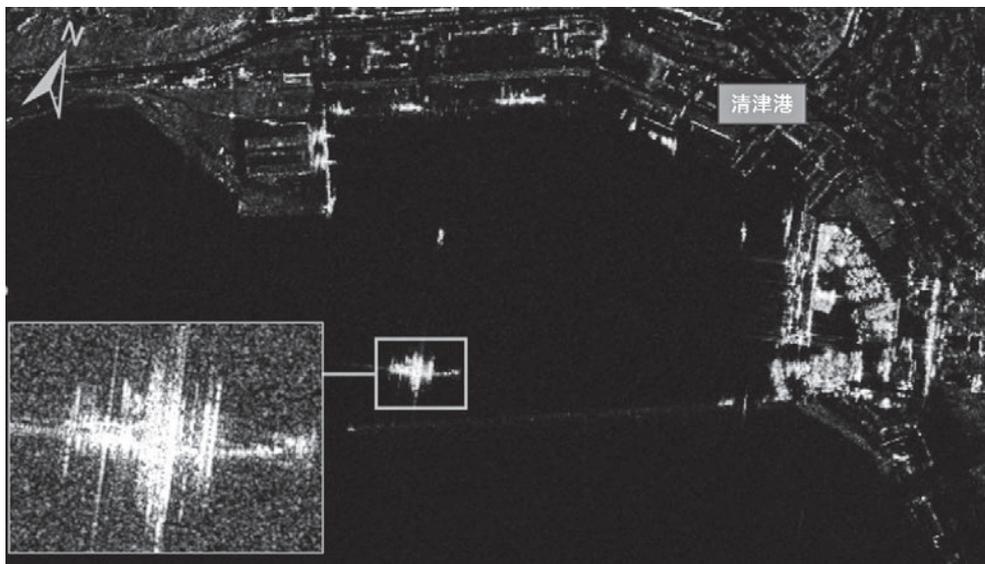


図2 北朝鮮兵力輸送目的ロシア艦艇活動（国情院報道資料）

このうち「北朝鮮兵力輸送ロシア艦艇活動」とする写真は出典が明記されず、韓国メディアは韓国の偵察衛星が撮影したと推察している。韓国軍は 2023 年 12 月と 2024 年 4 月に軍事偵察衛星 1 号機と 2 号

機の発射に成功した。1 号機は電子光学（EO）と赤外線（IR）の撮影装備を、2 号機は SAR（合成開口レーダー、Synthetic Aperture Radar）を搭載している。SAR は電磁波を地表に向けて照射し、はね返ってき

³ [보도자료 (報道資料)] 국정원, 북한 특수부대 러-우크라 전쟁 참전 확인 (国情院,北韓特殊部隊 ロ-ウクラ戦争参戦) 20241018 https://www.nis.go.kr:4016/CM/1_4/view.do?seq=320

た電磁波を受信・解析して地表の状態を映像化する。夜間や気象条件に関係なく、24時間撮影が可能だ。軍の偵察衛星が撮影した写真は軍事機密にあたるため、国情院が公開した写真は韓国政府が運用する他の衛星の可能性が高い。いずれにせよ、国情院が報道資料の形が北朝鮮動向の詳細を発表することは異例で、韓国政府の警戒感の強さを示している。

2. 特殊部隊「暴風軍団」

ロシア派兵の軸になる北朝鮮の部隊は、暴風軍団と呼ばれる特殊部隊（特殊戦部隊）と見られている。暴風軍団の母体は1968年に韓国大統領府襲撃事件を起こした124部隊を拡大した特殊8軍団とされる。その後、特殊8軍団をもとに第11軍団が結成され、いわゆる「暴風軍団」と称されている。戦時に韓国後方への浸透・攪乱、主要施設破壊作戦を遂行する部隊であり、正規戦・非正規戦を組み合わせる展開する精鋭部隊と位置付けられている。かつて、

金日成が「部隊員一人でも1個師団と変わらない」と述べたように、暴風軍団の戦闘力は歴代指導者から高く評価されてきた。

2017年の金日成主席生誕105年の軍事パレードでは、特殊戦部隊が初めて登場し注目を集めた。韓国国防省は2018年の国防白書で、北朝鮮軍が要人暗殺作戦を担当する特殊部隊を創設した⁴と明らかにした。白書は「特殊戦部隊を別途軍種（独立した部隊）に分類して能力を高めている」とし、「特殊戦兵力の規模は約20万人」と推定した。暴風軍団には軽歩兵旅団（雷）と航空陸戦団（稲妻）、狙撃旅団（雹）などの10個旅団があり、総兵力は4万から8万人規模とされる。韓国政府の分析では、北朝鮮は最終的にロシアに4個旅団、約1万2000人を派遣する計画で、これは北朝鮮全軍の約1%に相当する。過去に例のない大規模兵力が一度に海外の戦場に投入されることになる。

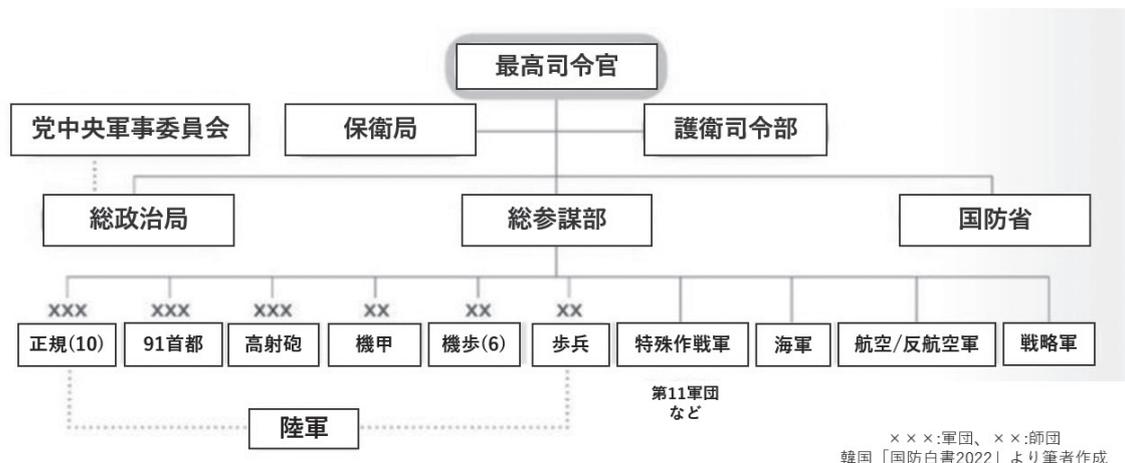


図3 北朝鮮軍の軍事指揮機構図（韓国国防白書2022：訳筆者⁵）

歴史的派兵を前に金正恩は9月⁶と10月⁷、2度にかけて特殊戦部隊の訓練基地を視察し、有事における特殊戦部隊の重要性を強調した。

「現代戦争の様相と性格を考察してみると、よく訓練され、準備された特殊作戦武力を戦場の基本戦闘武力として押し立てるのは勝敗の決定に重大な影響を及ぼす」

「軍隊の特殊作戦武力が共和国の戦争抑止力と戦争遂行能力において中核的中核力量になる」

「特殊作戦武力を最強の戦闘集団に絶え間なく拡大・強化していくことで、われわれの武力の発展により明確な進展をもたらす」

金正恩の言葉はロシア派兵を通じて特殊戦部隊に実戦経験を積ませ、戦闘能力を向上させるとの北朝

⁴ 大韓民国国防部『2018国防白書』

⁵ 大韓民国国防部『2022国防白書』,26頁

⁶ 朝鮮中央通信「敬愛する金正恩同志が朝鮮人民軍特殊作戦武力訓練基地を現地視察なさった」2024年9月13日

⁷ 朝鮮中央通信「敬愛する金正恩同志が西部地区朝鮮人民軍特殊作戦部隊訓練基地を現地視察なさった」2024年10月4日